

■御巫清直 神官，国学者。維新に際し，出直しを図り，古儀を尊重して復興整備に努め，国家神道の確立に貢献。

みかなぎきよなお

高田屋拿捕・1812＝ 伊勢国度会郡山田町(三重県伊勢市)杉原光基・都宇の長男に生まれる。

水野忠成老中1818＝ 6歳：

蝦夷地直轄終1821＝ 9歳：

・・・・1826＝14歳：_従祖父御巫清富の家を相続する。

富籤流行・・・1830＝18歳：

・・・・1836＝24歳：加藤衛次の次女音野子(のち環子)を娶る。

大塩平八郎乱1837＝25歳：

適塾オープン・1838＝26歳：_豊受大神宮御巫内人に補任，

蚕社の獄・1839＝27歳：

天保改革終・1844＝32歳：_高宮権玉串内人の庁宣を受ける。

阿部正弘首座1845＝33歳：

・・・・1848＝36歳：

ペリー来航・1853＝41歳：叙正六位上。

蕃書調所・・・1857＝45歳：

桜田門外変・1860＝48歳：

薩長同盟・・・1866＝54歳：

大政奉還・・・1867＝55歳：_嗣子親衛清生に家督を譲る。

明治維新・1868＝56歳：度会府温故堂都講。

戊辰戦争終・1869＝57歳：宮崎学校教授。

廃藩置県・・・1871＝59歳：_神宮の改革により，御巫内人の補任状および位階を返上。

明治6年政変 1873＝61歳：_この間，私費をもって三重県下を巡歴，各社頭について考証検討して「伊勢式内神社検録」を編述。

初の民間工場1875＝63歳：

三つの内乱・1876＝64歳：_教部省御用掛拝命。十等出仕となるが，

西南戦争・・・1877＝65歳：_廃省により退官帰郷。

沖縄県編入・1879＝67歳：*神宮司庁七等雇出仕，神宮教院一等教監。以後もっぱら神宮教院にあつて教義上に力を尽くす。とくに「喪儀類証」を著わしてわが国の神道葬祭の本義を明らかにした功績は大きい。

・・・・1880＝68歳 神宮教院職制改正により五等教監。神宮司庁六等雇，五等雇出仕と昇級。

明治14年政変1881＝69歳：

新体詩抄・・・1882＝70歳：神宮百宜に任ぜられ，造神宮頭兼補。

秩父事件・・・1884＝72歳：

帝国大学始・1886＝74歳：神宮権而宜，奏任官六等。

国民之友始・1887＝75歳：叙正八位。本官および兼補を辞退。

初の対等条約1888＝76歳：_神宮司庁儀式課顧問・神宮皇学館嘱託となり，

帝国憲法発布1889＝77歳：*式年造替の工事を監督，その間両宮諸殿舎を考究し，ひたすら古儀を尊重し，復興整備に努め，今日の規模を築くに至った。

郡司千島探検1893＝81歳：_神苑会委員を嘱託され，神宮古儀式図を調べて，神嘗祭旧式図・斎宮群行図などの下図を完成したが，

日清戦争始・1894＝82歳：_病没した。